

荘田平五郎没後100年プロジェクト

平五郎紀行—その1

臼杵—立志の風景

幕末に生まれ、青春を明治の創生期とともに歩んだ荘田平五郎。彼がその生涯をかけて近代的な企業、そして産業を育んだ根源はどこにあったのでしょうか？その原点は国内のいくつかの場所にあります。3回のシリーズで彼の足跡を追ってみましょう。

塩田—もと、臼杵幼稚園があった場所に臼杵藩士荘田家の屋敷がありました。平五郎は弘化4(1847)年、ここで生まれました。二王座台地と福良台地に挟まれたこの一帯は、江戸時代の半ばまでは水田、その前は川であった場所です。この一帯は臼杵川の河口に近く、汽水(海水と真水が混じた水)が入り込む水田であったことから、塩水の入る田、「塩田」と呼ばれるようになったと思われます。江戸時代半ば以降、この水田は埋め立てられ、臼杵藩士の屋敷地となりました。江戸時代半ばから臼杵藩士として臼杵に居住するようになった荘田家は、城下の中心ではなく、この新しい宅地をあてがわれたのかもしれない。

今は大人として社会を支える人々が、数多く巣立っていた臼杵小学校。その体育館があるあたりには江戸時代にも「学校」がありました。少・青年期を迎えた臼杵藩士を教育する「学古館」です。

少年期を迎えた平五郎も、海に近く、潮の香ただよこの「学校」に通い、漢学や数学、武芸を学びました。臼杵藩士としての基礎的な教育が行われていた学古館、動乱の幕末期には迫りくる外国に対応し、その技術を習得する人材を養成する必要に迫られていました。そこで、優秀な成績をおさめていた平五郎は、臼杵藩の重臣に抜擢されて「英学(英語やイギリスの制度、技術を学ぶ学問)」を学ぶよう命じられます。学古館で英学を教えることのできる教員がおらず、平五郎は江戸(東京)に向かうことになります。

学古館の二階から見えた臼杵湾、この海は江戸にも、そして世界にもつながっています。このとき、20歳になったばかりの平五郎の目に、青くて穏やかな臼杵湾はどう映ったのでしょうか。この海を越えようとする今が一生の志の始まりになると、このとき彼は感じていたのでしょうか。



▲学古館跡(臼杵小学校体育館位置)

臼杵市教育委員会所蔵

【イベント情報】

所縁の場所を巡るクイズラリー

全問正解者の中から抽選で100名の方に豪華景品をプレゼント！！

【とき】4月30日(土)～5月31日(火)

【時間】11:00～16:00(最終受付)

【受付】サーラ・デ・うすき

【問合せ】臼杵市中央通り商店街振興組合 ☎0972-63-8525